

衛星設計コンテスト実行委員会の林友直会長が資料 36 2(コンテスト結果)を説明した後、下記のような質疑応答があった。(衛星設計コンテストは、設計の部、アイデアの部、ジュニアの部からなる。今年は設計の部で3件の応募があったが、JAXAの小型衛星の製作と並行して進められなくなった2団体が出場を辞退し、審査対象が1件だけになったが、設計大賞に値すると判断した。)(JAXAとの関係について、もっと連携するよにとの要請があったが、どうも其れほど単純な話では無い様に感じた。)

松尾:質問等御座いますか。

野本:アイデアとジュニアは全く独立してるんですけども、先程お話があった様に、JAXAの方でピギーバックの衛星の募集なんかしていると、設計部門と云うのは其処とコンパラと云うか、競合してる様な感じがするんですけども。前に林先生の鯨衛星が此れで選ばれて、実際飛んでる訳ですけど、そのJAXAがやっている事と、この設計部門の事が、一寸、両方でやるって云うのは無駄な様になって云うか、両方に分散してしまうと云う事もある様な気がするんですけど、その辺をJAXAの方と話し合っ、一緒にするとか、そう云う事は考えて無いんでしょうか。

林:はい、此れは、実は、JAXAの中の方とは、直接繋がりはないという形で提案が為されている訳で御座いまして、寧ろ教育プログラムとしては受け止めて頂けるかとは思いますが、設計そのものは全く学生が主と云う事で、其れの指導する先生も、必ずしもJAXAと直接繋がりを持っている方

では無いと了解して居りますので、特に競合という形になっては居ないと思います。

松尾:まあ、但し、JAXAの方に出すのが忙しくて、準備に忙しくて、こっちに中々出せなかったと云うお話もあったので、そう云う意味で、機会として何か重複してるので、やり難いんではなからうかと云うお話で、そんなとこですけど。

林:ウーン、まあ、そうですね。その件に関しましては、一度採択されてしまって、更に実現に向けようとしますと、そう云う問題が起こると云う事にはなりますけれども、(此処で言葉が止まる。)

池上:宜しいですか、先ず一つ質問なんですけどね、海外、或は国際的に、こう云う様な宇宙ミッションに対するコンペの様なもの有るんですか。

林:必ずしもそう云う国際的な了解で出来ている母体と云うのが有る訳じゃないんですが、外国にも、例えばIAAと申しまして、宇宙航空アカデミーと云うのが御座いますが、其処で一年おきにベルリンで小型衛星のシンポジウム開いておりますけど、その中には、矢張り、スチューデントセッションと云うのが有りまして、此れに似たアイデア募集をやって、色々賞を与えている例が御座います。それからアメリカでも、ユタの州立大学主催かな、あすこでも小型衛星のシンポジウムが御座いまして、其処でも学生に賞を与えるような企画も出ております。

池上:で、其れと比べて此れはどうなんですか。

林:必ずしも此れは、あの一、どう云う面、あの一と言いますか、あ

の、外国の場合には大体は大学生或は大学院生が多くて、日本の場合にはジュニアまで加えておりますので、そう云う意味では幅は広いと言ったら宜しいかと思えます。中の質に関しましては、テーマにもよりますけれども、まあ、特に大きな違いはないという風に考えて宜しいかと思えます。

池上: ああそうですか。よく一般論としては、外国の連中はミッションについては色々面白い話が出てくると、日本は中々そうじゃないって云う風な話もあるけど、そう云う事は余り感じられない。これで見ると随分面白そうなムニャムニャ。

林: 結構、皆さん良いアイデアが、出して来ております。

池上: それとあと2点ありまして、一つは此の下のワーキンググループで月については無人探査やろうと云う話で、其れ言うのと大体ロボットで色々出来そうですねって話があって、是非、そう云う話も動いてるんで更に広くPRをして、色んなアイデアを使うようにして頂きたいと云う風に思います。それからもう一つは、僕、一寸、やり方の問題なんですけどね、私、会津大の学長やってるときにパソコン甲子園ってのをやりましたね、此れは高校生のプログラムとコンピュータグラフィックスのコンテストをやりまして、結果的には非常に上手く、今も行ってると思うんですが、その時に松本零次さんを出したんですね。ですから、何か、こー、もう一寸花を添えるという意味では松本零次さんを使うとか、あれ、少年団か何かの、今、団長ですよ、宇宙少年団の。

林: アッ。ええとですね、此れは何回目だったか忘れましたが、来て頂きまして、

池上: ああそうですか。或はそれこそ宇宙飛行士を表に出すとかですね、何かそう云うような一般の人がよしと思うようなそう云うシンボルをお使いになると、ひょっとしたら上手く行くんじゃないかと、此れはアドバイスです。

林: 有難う御座います。確かにアトラクションとしてですね。一度立花隆さんにも、あれ確か、審査員にも入って貰ったこと有ったですね。あの、第一回目には確か毛利さんにも入って貰ってたんですけれども。まあ、色々工夫はしておりますし、今後も良いアイデア、是非。

池上: 委員長と云うのは、名誉委員長でも良いですけどね、名誉会長とか、そう云うところに名前を出すと案外。

林: 成る程。

池上: 「よし」って云う奴が出てくるかも知れない。

林: そうかも知れませんね。まあ、出来るだけ、矢張り、ただの、先日行なわれました最終審査会でも、出した連中だけではなくて、その後も集客能力を増やそうと云う事で、「かくや」の講演も加藤さんにやって頂く等の工夫は致しましたけれども。

松尾: 宜しゅう御座いますか。先程の野本委員のご質問で、未だ一寸良く閉じてないような気もするんですけども。わたしや、此の小型衛星の打上げ機会提供に関わる公募というものの中身を必ずしも良く知っている訳では御座いませんで、何とも言えませんが、ご趣旨は違うにしても、此方の衛星設計コンテストも、最高の結末ってのは、此処で何か選ばれて、其れが何処かの打上げ機会に乗ると云う事で

御座いましょう。だとすれば、両方とも此れ JAXA 絡んでる話ですから、其処の連携と申しましょうか、と云うものが何か考えられてしかるべき様な気が致します。

林: 其れがあると本当は宜しいんです。まあ、私の事申しますと、鯨の衛星の場合にはたまたま運が良くて、その直後に H- の打ち上げ機会提供と云う事で公募があって、まあ、其れは、そう云うような形が、

松尾: 打上機会が、コンティニユアスにあるとは限りませんので、此方みたいに連続的に何か出て来るものと、上手くマッチングするかどうかは別ですけれども、ただ、はっきり、準備が競合して忙しかった等と言われると残念だなという気が致します。

林: まあ、其れは有りますねえ。まあ、此れはやっぱり、指導する先生の人工が少ないと云う事も有りまして、一つに取り掛かっていると、一寸別のテーマに迄は手が回らないと云うのが実情だろうとは思いますが。ですから、まあ、その辺の裾野も広げないといけないのかも知れませんが。

松尾: まあ、せめて、少ないなら少ないなりに、

森尾: JAXA も主催者なんです。だから寧ろ JAXA の問題だと私は思うんですけどね。此れで、例えば設計大賞取る位のは、JAXA の小型衛星打上機会があったら優先権あげるとかですね、

林: 本当は、そうなれば宜しいかと思えますけれども、

森尾: そうやると言えば、もっと真面目に、一所懸命此処を通過するのが登竜門だと。

林: そうなんです。そう云う風に採択して頂ければ、此れはまた大変、宜しいかと思えますけど、また、もう一つ其処の関門が御座いまして、必ずしもそうも行かないと云う事も有ります。それ以前に、矢張り、ものづくりに入るための資金調達と云う処が御座いますので。

池上: 其れについてはね、大体、一寸、事務局のネ、まだまだやれることをやってないような感じするんですよ。で、金の問題だったら、其れこそドナーネーションを、お願いするとか、例えば、賞品なんかは企業の方から出して貰うとか、色々やりようが有ると思うんですよ。まだまだ、やれるけどやってない事が有るんじゃないですか。そんなこと無いですか。

林: どうでしょうか。まあ、あの一。

池上: 此れは事務局の熱意さによって、変わってくると思います。

林: そうですね。

松尾: 幾つかのサジェッションは JAXA にも伝わると思いますので、宜しくご検討頂きたいと云う風に思います。

どうも有難う御座いました。